

会 議 名	第五回足立区ギャラクシティ運営評価委員会		
開催年月日	平成 26 年 5 月 30 日 (金)		
開催場所	こども未来創造館 2 階 わーくしょっぷスタジオ		
開催時間	13 時 00 開会 ~ 16 時 30 閉会		
出 欠 状 況	委員現在数	9 名	
	出席委員数	9 名	
出席者(敬称略)	出席	委員長	平澤 茂 (文教大学名誉教授)
		委員	吉井 謙 (東京大学教授)
	欠席	委員	山田 心 (認定 NPO 法人 日本グッド・トイ委員会法人運営部長・東京おもちゃ美術館員)
		委員	伊東 正示 (東京理科大学非常勤講師 株式会社シアターワークショップ代表取締役)
		委員	鈴木 春男 (足立区少年団体連合協議会副会長)
		委員	青木 信夫 (足立区小学校 P T A 連合会会長)
		委員	稲塚 由美子 (ミステリー評論家・翻訳家・現在足立区民生委員)
		委員	染谷 江里 (一般公募)
		委員	坂田 卓也 (一般公募)
事務局	子ども家庭部青少年課	課長	寺島 光大
	青少年課ギャラクシティ支援担当	係長	鈴木 史敏
	青少年課ギャラクシティ支援担当		上野 兼司
	青少年課ギャラクシティ支援担当		照屋 良太
	青少年課青少年教育担当	係長	村上 長彦
	地域のちから推進部地域文化課	課長	松野 美幸
	地域文化課文化団体支援係	係長	古川 裕子
	地域文化課文化団体支援係		脇本 祥子
	館長		鈴木 敏之
	副館長		黒川 和男
指定管理者	副館長		上遠野 めぐみ

<p>会議次第</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委員長挨拶 3. 前回の議事録 4. 事務局からの資料説明 5. 指定管理者へのヒアリング 6. 意見交換 7. 次回の議事内容と日程調整
<p>配布資料</p>	<p>資料1 次第</p> <p>資料2 第四回足立区ギャラクシティ運営評価委員会議事録（案）</p> <p>資料3 ギャラクシティ運営評価委員会評価書 公表及び集計サンプル</p> <p>資料4 ギャラクシティ運営評価委員会本日及び今後のスケジュールについて</p> <p>資料5 ギャラクシティ作成チラシ</p> <p>資料6 平成25年度ギャラクシティ運営評価書</p> <p>資料7 平成25年度施設運営統計資料</p> <p>資料8 ギャラクシティにおける接遇診断結果報告書</p> <p>資料9 採点票</p> <p>資料10 <参考資料> ギャラクシティ運営評価委員会評価書「集計票」及び「公表用」</p>

<p>松野課長</p>	<p>< 1 . 開会 ></p> <p>ただ今より、第五回ギャラクシティ運営評価委員会を始めさせていただきたい。</p> <p>(傍聴人入場)</p>
<p>平澤委員長</p>	<p>< 2 . 委員長挨拶 ></p> <p>では、事務局より、配布資料、今日の進め方について、説明願いたい。</p>
<p>鈴木係長</p>	<p>< 3 . 前回の議事録 >、 < 4 . 事務局からの資料確認 ></p> <p>それでは、席上の資料を確認する。なお、資料2の議事録については、修正箇所があれば、事務局まで6月20日までにご連絡いただきたい。その後情報公開する。</p> <p>また、事前の送付資料についても、確認願いたい。</p> <p>(各自資料を確認)</p>
<p>平澤委員長</p>	<p>では、これより指定管理者へのヒアリングを行いたい。管理運営と広報については、最後に時間を取って説明していただく。では、まず子ども体験事業について、説明願いたい。</p> <p>< 5 . 指定管理者へのヒアリング ></p>
<p>鈴木館長</p>	<p>資料2の平成25年度施設運営統計資料の7番目をご覧いただきながら、昨年度の子ども体験事業について、説明させていただく。</p> <p>(子ども体験事業について説明)</p>
<p>平澤委員長</p>	<p>子ども体験事業について説明いただいた。この件について、ご質問があればお願いしたい。</p>
<p>伊東委員</p>	<p>資料説明について、理解ができなかったので、再説明をお願いしたい。今一番知りたいのは、できたこと、できなかったこと、どういうことができなかったかということ。それがわかると、評価しやすい。</p>
<p>鈴木館長</p>	<p>手元の資料の採点票がわかりやすいため、そちらをもとに子ども体験事業について、再度説明させていただく。</p>
<p>平澤委員長</p>	<p>補足的な説明をいただいた。他にご質問があればお願いしたい。</p>
<p>稲塚委員</p>	<p>子ども演劇について、足立区を拠点に活動する演劇ユニットと一緒にやっているのは微笑ましいが、子どもたちはまだ大人に引っ張られているところがある。次の段階として、ひとつ</p>

	<p>の居場所づくりの場としてあるべきなのではないか。何かを発信するというよりかは、他にはない居場所として子どもたちが集まっている感じなのではないか。</p>
鈴木館長	<p>子ども演劇については、当時インフルエンザが流行っていた経緯があり、おとなしめに見えたかもしれない。ただ次の段階として、子どもたちが居場所づくりの場として新たな表現をしていきたいというのは感じている。実際に参加すると、表情が豊かになるという声も聞かえている。居場所づくりの場として次に繋がっていくと良い。</p>
稲塚委員	<p>ギャラクシティが居場所づくりの場となると良いので、期待していきたい。また、ボランティアについて、実際に活動しているところを見たことがない。どの辺りに、どのくらいの人数がいるのか。</p>
鈴木館長	<p>登録人数は、昨年度でいうと60名ぐらいだった。積極的に活動しているのは、数名であった。ボランティアによるワークショップ屋台で、土・日を中心に実施していた。場所というと、ホワイトあとりえやものづくりガレージ、ちびっこガーデンで行っていた。ワークショップでは、紙芝居などを行っていた。</p>
稲塚委員	<p>そうすると、ボランティアというのは、大人の遊びをやるということか。</p>
鈴木館長	<p>そういうことではなく、実際に活動し、プログラムを行っているということである。</p>
稲塚委員	<p>ボランティアの組織作りは進んでいると考えてよいのか。</p>
鈴木館長	<p>まだ至らない点はあるが、活性化していくために定期的な会合を開いている。人数を増やしていかないと活発になっていかないので、増やしていくことが今後の課題である。</p>
稲塚委員	<p>アウトリーチについて、桜まつりなど、他のところに小さいプラネタリウムがあって体験できるといいと思うが、まだまつりなどに出て行くなどということはないのか。</p>
鈴木館長	<p>昨年度でいうと、光の祭典、今年でいうと千本桜まつりに出展している。その時には、工作系のプログラムとワークショップを行っている。屋外で行う場合には、天気などの影響があるので、移動型のプラネタリウムを持ち出すことができないのが課題ではある。</p>
平澤委員長	<p>採点票について、行政側の評価と自己評価のずれがあるところについて、行政の評価が違うと思うところはあるか。</p>
鈴木館長	<p>概ね妥当ではないかと思うが、指定管理者が現場でやっている立場と、視点の捉え方が違うのは感じている。言葉の捉え方によっては、ここまできつい評価を受けてしまうのかとは感じている。ただ、真摯に重く受け止めさせてはもらっている。改善できるところは、改善していきたいと前向きに捉えている。</p>

平澤委員長	我々は、あくまでも客観的にできる限り第三者的な立場で評価していきたい。両者の意見を比較しながら、評価していきたいと思う。
坂田委員	来場者人数について、130万人の数字については、まるちたいけんドームについてのみか。
鈴木館長	ギャラクシティ全体での利用は約163万人で、そのうち、こども体験事業のプログラムとして、130万人利用したということである。
坂田委員	想定の3倍以上の数字で、利用者が大変多かった印象を受けるが、同じような公共の施設と比べたことはあるのか。
鈴木館長	そこまでの分析はできていない。
坂田委員	他の公共施設の利用者数がわかると、評価しやすいところがある。初年度は利用者呼び込むために初級者向けの講座が多かったが、リピーターを増やしていくために、初級から中・上級などに繋がる連続講座をもうけると良いと思う。また、リピーターの割合は現状でどれくらいあり、中長期的には、その割合をどう変えていくかイメージはあるのか。
鈴木館長	リピート率については、平日で40%、休日だと55%ぐらいが初めて訪れている。トータルでいうと、概ね半々である。リピート率をいかに上げていくかは、課題であると感じている。ただ一方で、初年度として成果が上がっているのは、4回目以上の来館が高い比率となっている。平日だと36%、休日だと20%である。今後は、平日で40~50%、休日で30~40%にしていきたい。
坂田委員	課題であげていたところとして、ボランティアの活用、区内の大学との連携や区民参画があるが、かなりやっている印象はあるが、当初はもっとやる予定だったのか。
鈴木館長	区の要求として、ボランティアの活用や大学連携をもっと図るということである。その他に、質の面が大切である。質の面では、まだ十分ではなかったと感じている。大学連携についても、実施はしているが、お互いがメリットのある形での連携には至っていない。
坂田委員	対大学であったり、企業であったりした時に、企業にもメリットがあることをもう少しやりたかったということか。
鈴木館長	企業の場合だと、何かを求めてということはあまりなく、社会貢献活動の一環としてやっていただいている。
坂田委員	大学が求めていることとは何か。
鈴木館長	実践の場というのが一つあると考えている。自分たちがやっていることを一般の人がどう思っているのか、また大学自体のPRを行っていききたいのもあるのではないか。

山田委員	利用者数について、館全体の延べ人数で130万人ということでしょうか。
鈴木館長	よろしい。
鈴木館長	週末だと5～6千人、平日だと3千人という延べ人数の数字になる。
山田委員	アスレチックや体験型のところが多いが、一年運営してみて適正数はどのくらいだと感じているか。
鈴木館長	本当に適正な人数が何人かは把握しづらいが、足立区の設定目標数の75%ぐらいではないかと考える。
吉井委員	来場者数が予想を超えて多いので、それをこなすのに精一杯で、量的な水準をクリアするために努力をした印象を受ける。独自性及び継続性、ステップアップという要求について、どうクリアしていくのかが見えない。また、大学連携については、事業をやる前にきちんとすり合わせをしているのか。
鈴木館長	個々の事業については打合わせをしているが、大きなところの位置づけまで踏み込めていたかといえば、疑問の残るところである。
吉井委員	大学との連携や他のプログラムについて、足立区からのアドバイスや要求がないとやっていけない印象を持ったが、なくなった場合に指定管理者の方で実施する方法はあるのか。
鈴木館長	指定管理者では、正直でききれないところがある。やはり、足立区の力を借りないとできないところがある。
吉井委員	想定を超えた人数がこれ程来たことについて、想定とこれ程違った理由は何か。
鈴木館長	事業計画にどういうステップで想定をしていたのかは、我々もわからないところである。
吉井委員	そうなると、足立区側の問題である。そんなに想定と違うということがあるのか。
鈴木館長	事例に基づき設定を行っていると思われ、駅からの利便性や、国内最大級のスペースあすれちっく、がんばるウォールなどの独自性まで加味した事例がなかったのが、想定とずれたのではないか。
平澤委員長	では次に、まるちたいけんドームについてお願いします。
鈴木館長	まるちたいけんドームについて、採点票を基に説明を行う。 (まるちたいけんドーム事業について説明)

平澤委員長	まるちたいけんドームについて、説明をいただいた。これについて、ご質問があればお願いします。
稲塚委員	大人のためのプログラムについては成功したのか、また、赤ちゃんが空を見る体験などの具体的な取り組みを考えているか。
鈴木館長	まず、大人のためのプログラムについては、必ずしも満席になることはなかった。一日平均でいうと、20～30人ぐらいであった。その他に、ライブイベントを毎月行ったが、そちらについても動員はよくなかった。もう少し、広報の仕方などで、定着できればと考えている。また、赤ちゃん向けとしては、足立区からの紹介で、大学の先生と連携し、マタニティ向けのコンサートをこれからやってみようと考えている。
稲塚委員	足立区には大学も多いので、連携しやすいのではないか。
鈴木館長	貴重な地域資源であり、とても大切であると考えている。
平澤委員長	評価にあたっては区民目線が大事になるので、ぜひ区民目線で質問をいただきたい。
稲塚委員	ポスティングやSNSをこまめに活用したり、喫茶店などにもギャラクシティのチラシを配ってみてはどうか。
鈴木館長	ギャラクシティで企画しているプログラムは、独自性があるものだと自負している。しかし、知っていただかないと来ていただけないので、地域の方々に知ってもらう努力をしていきたい。
坂田委員	まるちたいけんドームだけ利用料金がかかるが、料金の妥当性について、評価はしているか。
鈴木館長	どういう視点から捉えるかにもよるが、公共系であれば妥当だと考える。民間では、もう少し高いのではと考えている。
坂田委員	プログラム別の料金体制となっているのか。
鈴木館長	通常の場合はしていない。足立区の条例に基づき設定している。
坂田委員	お金を払ってまるちたいけんドームに行こうと思ってもらえる、プログラムの料金設定が考えられるとよいのではないか。
鈴木館長	その点については、番組構成が大きいと考えられる。今年、ポケットモンスターを上映したのも、間口を広げようとしたためである。様々なプログラムについて知ってもらうのが、大事ではないかと考えている。

吉井委員	まるちたいけんドームの活用について、区から従来の発想にないことを要求されていると思うが、ただ単に番組を変えるだけで達成されるのか。
鈴木館長	そうではないと考える。
吉井委員	独自の利用を考える上で、キーワードとなるのは人である。従来のプラネタリウムとは違うやり方をしている人たちを、活用するネットワークはあるのか。
鈴木館長	まだネットワークは十分ではない。そこで、大学連携が大事になってくるのではないかと考える。東京電機大学で紹介をいただいて、映像番組を作るような試みがある。今後も、ネットワークを開発していくことが大切であると考えている。
吉井委員	足立区にも大学があるので、ぜひ活用していくべきである。また、利用者アンケートについては、改良には役立たないと言われている。主体的に参加しているため、既に満足度が高いので、意味をなさないのが主流になっている。
鈴木館長	その点については、利用していない人に声を聞くのが大切であると考えている。また、聞き取り調査をしていくのも大切ではないかと思う。昨年は、実際に学校を訪問し、声を聞いたこともあった。
平澤委員長	区民目線、専門家目線、両方合わさったご意見をいただくことができた。それでは次に、文化事業についてご説明をいただく。
上遠野副館長	文化事業について、資料を基に説明する。 (文化事業について説明)
平澤委員長	文化事業について、説明をいただいた。ご質問のある方はお願いします。
稲塚委員	とても充実してきている印象を受ける。以前、落語公演の際にハウリングを起こした時など、全体でミーティングを行ったと思うが、その時のことを忘れないで欲しい。また、ロビーコンサートについては、モールで行うのが良かったと思う。足立区の音楽家の方を呼ぶなどして、足立区の音楽家を育てている印象を受けるが、その考えはあるのか。
上遠野副館長	昨年度は5回実施したが、数はまだ少ないと思っている。ロビーコンサートについては、次の公演に関わりのある方や、足立区にゆかりのある方をお願いをしている。今後は、新しい音楽家を育てることや、発掘していきたいと考えているが、まだそこまでには至っていない。足立区音楽祭などの発表を活かしていきたいと思う。また、場所に関しては、モールは素晴らしいところではあるが、リニューアル後では館内の導線の変化や子どもの声が聞こえるなどして、音楽が聞こえないことが起きているため、ホール内で実施している。しかし、ホールでは敷居が高く入りづらいこともあるため、いいアイデアを模索中である。今後、館全体で音楽を楽しむように検証していきたい。

稲塚委員	区民目線であると、外でやってもいいのではないかと思う。館内にこだわらなくてもよいのではないかと思うので、検討していただきたい。
山田委員	区民の文化活動に有益となる情報収集及び発信、交流の機会の創出について、足立区の所見と指定管理者側の達成度の差があるのを感じた。具体的に、こういったものをクリアしたら交流の場が達成できたとしているのか。
上遠野副館長	ここまでの達成度については、区民活動の情報を集約して発信していることである。それはホームページであったり、チラシを館内に置いていることである。ただそれだけでは、発信、受信だけになってしまうので、次に繋げるためにSNSなどを活用して広げていくことを考えている。
山田委員	具体的に交流会や懇親会を開催することなのか、合唱団同士と一緒にイベントを開催することなのか、区との意見交換などのすり合わせをしているのか。
上遠野副館長	それについては、今後の課題であると考えている。様々な活動団体などに区を中心に取りまとめていただいて、積極的に呼びかけていきたい。
平澤委員長	他にご質問のある方はいるか。
鈴木委員	目標に対する実績で、目標達成率が書かれているが、定員と目標が違うがその設定具合についてはどうということか。
上遠野副館長	一年目ということもあり、今までの経験値や西新井での類似作品などの集客を踏まえて、それぞれの作品によってパーセンテージを出させていただいている。
平澤委員長	では次に、管理運営と広報について説明をお願いします。
鈴木館長	採点票に基づき、管理運営と広報について、説明を行う。 (管理運営、広報事業について説明)
平澤委員長	それでは、管理運営と広報について、質問のある方はお願いします。
山田委員	広報について、一年目の広報はあまり声をかけなくても来てくれる部分はあると思うが、それにしても数は少ないと感じている。ただ、収支報告書を見ると予算の半分しか使われていないが、その点についてはどう感じているか。
鈴木館長	2,300万円の内、800万円が人件費であり、純粋な広報費が1,500万円である。また、区報に420万円かかり、残りの部分で広報を行ったということである。
山田委員	統計資料の収支報告書の人件費の中には、広報に係る人件費は含まれていないということか。

鈴木館長	施設維持管理費の中に、広報の人件費が含まれているということである。
坂田委員	アンケートについて、回収率は取っているのか。また、どのようにアンケートを行っているのか。
鈴木館長	毎月行っているアンケートについては、平日と休日で行っており、平日、休日ともに100件という目標数値を立てている。実際、平日は60～70件のこともあるが、2～3日かけて集めている。エントランスに机を出して、声をかけながら行っている
坂田委員	アンケートについては、回収率が重要だと感じている。何部配布し、最終的にどれくらい返ってきたという指標があった方がよい。もう一点、混雑時に並んで待っている時など、混雑が嫌にならないような対策は考えているのか。
鈴木館長	待ち時間を短くできる工夫を考えているが、現在有効な手立は見付かっている。しかし、一つやっているのが、壁に×クイズや迷路をマグネットで付けて、飽きないように置くななどしている。今後は、別の方法も含めて検討している。
坂田委員	予算のかかることではあるが、大型ディスプレイで、まるちたいけんドームが今やっているような内容を流して集客を図ったり、他のイベントなどの店内PRをやったりするとおもしろいと思う。
鈴木館長	デジタルサイネージがエントランスに3台あり、特にスペースあすれちっくの待ち列ができるところに、プロモーションを流したり、まるちたいけんドームでやっている映像番組を流したりはしている。
坂田委員	来館時は、プログラムを期待しているが、予約や整理券の配布場所などがわかりづらい。案内として提示してもらえると、利用者としては嬉しいので検討してもらえるとありがたい。
鈴木館長	デジタルサイネージでできると良いと考えている。ただ難しいのは、そこにかける人手が悩ましいところであり、今後の継続課題であると考えている。
平澤委員長	話しを聞いていると、初年度ということで、色々と課題があるのがわかる。
稲塚委員	友の会を作ったのは良かった。また、ロビーコンシェルジュなど、困っている人がいたら情報を与えてくれる人がいると良い。初期の頃は、館内をよくわかっていない人も多い。人件費の問題もあるため、ボランティアや大学生の活用を図ってみてはどうか。
鈴木館長	学校の振替休日などの日は、利用者対応のため事務所がほとんど空になる状況である。また、設備的な構造上の問題もあると考えている。例えば、看板については、もう少し別の表示があると良いなどは感じている。引き続きロビーコンシェルジュなども含めて、可能な限り積極的に声かけなどを行っていきたい。

青木委員	障がいのある子どもや、ハンディキャップのある子どもについての対応があれば、教えていただきたい。
鈴木館長	特にまるちたいけんドームでの対応がある。まるちたいけんドームに入ると、暗い場所や年齢など様々な子どもがいるため、貸し切り対応などを行っている。また、特別な配慮ができるように、スタッフを厚く付けている。
青木委員長	専門性がない人が対応した時は、保護者は不安を感じる。可能であれば、専門性がある人を置いて欲しい。子どもも含め、保護者も一緒に体験したいが、様々な事情を抱えているため、区の施設として全ての子どもが遊べる施設であって欲しい。
鈴木館長	専門性がある知識を持ったスタッフの配置については、継続的な課題としたい。
青木委員	特に子ども体験事業など、健常な子どもにも周知をお願いしたい。
吉井委員	接遇診断について、指定管理者として受け入れてやっていく方向で考えているのか。
鈴木館長	結果について重く受け止めている。指定管理者の努力として、教育研修も含めて、接遇の向上を図っていく。
吉井委員	具体的な事項について、微笑みや声かけについて、どうしていくのか。約60人の登録ボランティアがいて、活動ごとに参加者が違う中で、どう周知していくのか。
鈴木館長	月に一度、ボランティア研修を行い周知している。
吉井委員	組織運営体制について、運営会議を毎週実施しているのは良いと思うが、現場からの声はどういう形で会議に出てくるのか。
鈴木館長	一つは、各ポジション別に日報を付けている。日報に気が付いたことを書いてもらっており、各部門が必ず見るようにしている。それと、巡回スタッフに直接的に意見を聞くこともある。
稲塚委員	ちびっこガーデンについて、0～6歳までの利用範囲は、5～6歳の子どもは大きく、小さい子どもにとっては危ない面もあるため、住み分けは考えていないのか。
鈴木館長	ちびっこガーデンについては、子育てサロンという区の施設の位置付けがあるため、指定管理者だけでは、なかなか変更しづらいところがある。ただ、0歳児のエリア専用のスペースを設けたり、スタッフを付けたりなどの対応は行っている。
平澤委員長	他に質問もあるかと思うが、ヒアリングはこれで終わりにしたい。この後、意見交換をして終了としたい。

	<p>< 6 . 意見交換 ></p>
平澤委員長	<p>今日のヒアリングを通じて、一人ずつご意見を頂戴したいと思う。</p>
染谷委員	<p>当初予定していたプログラムの内容と、開館して来館者が来てからとでは、予定していたものがあまり好評ではなかったり、そうでもないと思っていたものが好評だったり、内容が変わってきていると思う。それに対して、どういうふうに対応していくのか、また対応できない部分について、次年度の課題として今年はここを充実していたからできなかったという、現場レベルの話を聞きたかった。また、ボランティアについて、たくさんやられているが、最終的に何を求めてやろうとしているのか、またどういったやりがい求めて来ているのか、ボランティアの方々の特性を活かしながら、やっていく方法があってもいいのではないかと思った。</p>
坂田委員	<p>運営評価委員会に出させてもらう中で、一利用者としても、ギャラクシティがどういうアウトプットをしてきたか、会議の中でもどういう考えのもとでやってきたかは、理解しているつもりである。それに対して、区がどういうことを求めてきたかは、区の所見をよく読みたい。区の考えていたものと、指定管理者がやってきたことについて、どういったギャップがあったのか、それに対して利用者との間に、本当にギャップがあったのかについて意見が言えれば、評価ができるのではないかと思う。</p>
山田委員	<p>ヒアリングをさせていただく中で、初年度であったり、想定以上であったりという言葉聞いた。ただ、受託した子ども体験事業だと、丹青社はそれまでの実績を持っていて、経験値があると仮定して指定管理を取っているの、それを言い訳にするのは違うのではと感じた。また、収支で最終的に赤字になっているのは、気になるところではあるが、色々な意見を聞くことができて良かった。</p>
平澤委員長	<p>初年度ということもあり、相当色々な課題を抱えていることが、本日改めてわかった。指定管理残り四年で、継続してどこまで改善していけるのか、そのために区としてどこまで支援するのか、そこが一つの課題である。指定管理者が、区や区民が求めることにどこまで近づけるのか、区側として常に気を配っていくことが重要である。事例によって、協働という言葉はあるが、どちらかという行政側が指定管理者に対して、非常にシビアにものを言うだけだと、指定管理者が放り出してしまうこともある。課題が多いため、行政側がどこまで目配りをするのか、そこもお願いしたいところである。</p>
吉井委員	<p>現場は課題があるが、この一年よくやった印象である。色々な試行錯誤を重ねてやってきたことが、今日のヒアリングでよくわかった。指定管理期間五年のうち、一年目としてはある程度のレベルに達しているのではないかと感じている。一方、これからの伸びしろについては、独自の視点では見えないように思う。区である程度でこ入れをしないと、将来に繋がるようなことがないと感じたのが残念である。区には大学がいくつもあり、また産業の人もいるが、指定管理者の力だけでは活かしきれないと感じた。将来の伸びしろとして、そこを含めて成長して欲しい。そのためには、区が余程サポートしないと難しい。若い人たちの教育</p>

伊東委員	<p>に対して、区がどう考え、この施設をどういう考えで作って、どういう成果を上げたのか、例えば文部科学省などに区の試みとしてアピールできれば素晴らしい。足立区をブランド化するという考えの中で、ギャラクシティが持っている意味合いは大きい。日本全体に対して、こういう試みをやっているというアピールの場として活用し、将来に繋げて欲しい。</p> <p>ヒアリングをさせていただく中で、評価をすることの重要性、責任の重さを感じている。評価委員は、指定管理者を評価するために集まっているが、同時に区を評価することでもあり、対外的には評価委員が評価されるのではないかと思った。指定管理者制度、システムについて、もう一度考える必要があるのではと感じた。指定管理者を選ぶ時に、区の要求水準があり、それに対してどれだけ実行できたかというところが評価だと思っていた。しかし、新しくできた施設でリニューアルしてやることは、事前にはわからないことだらけである。そのルールで一年を評価するのは難しい。指定管理者はできる範囲と範囲外のところがあり、範囲外のところについても質問があった。それはむしろ区がやることである。また、残念なことに、今見ている資料は昨年度のデータで、今年度は既にスタートしているので、この評価は来年度にしか活かせない。指定管理期間が五年しかない中で、大丈夫なのかなと思う。半期なのか、四半期で変更していかないと、生きた施設になっていかない。さらに、1,500万円の赤字については、指定管理者では利益を上げられないため、どう解決していくべきかは、区が方法を考えるべきである。</p>
青木委員	<p>昨年プレオープンした時から、お手伝いをさせていただいた。列をどう作ったらいいのか、どう待たせたらいいのかというところからやってきた。常に館全体を見させていただく中で、努力してきたのは感じている。また、ハンディキャップのある子どもにも、行政が関わっている施設として、伸び伸びできる環境であって欲しい。子どもたちが遊んだり、受け止めたりする中で、区側にも努力をして欲しい。</p>
鈴木委員	<p>オープンして一年で、来場者数が想定を上回ったことで、ここがスタートになる。この数字が想定を超えたことがいいのか、逆に減ったらいけないのかというのは、商業施設ではないので問題ではない。子どもたちに夢を与える場所なので、想定より増えたことで、それに携わる人件費がとられ、そのために低下したサービスがあるのではないかと、振り返ってみた方が良いのではないかと思う。何よりも良かったのは、これだけの人数が来館したが、重要な事故がなかったことである。それと気になるのは、赤字スタートである。せめて、プラスマイナスゼロで運営して欲しかった。</p>
稲塚委員	<p>施設全体が、ふるさとになっていて、何かを持ち帰れる場所であると感じている。南米チリの天文台からの映像や、がんばるウォールなど、大人になってから振り返ってみると、身近にあったことはすごいことである。しかし、そのまま使っただけでは、来なくなってしまふ。誰が施設を運営しているかということではなく、本日は意見を言わせていただいた。</p>
平澤委員長	<p>それぞれに貴重なご意見をいただいた。採点票については、一週間をめどに事務局に返送していただきたい。それでは、本日の議事はこれで終了にしたい。</p>

鈴木係長	<p>< 7 . 次回の議事内容と日程調整 ></p> <p>次回以降のスケジュールにつき、資料 4 に基づいて説明。 7 月に開催予定の第六回運営評価委員会は、7 月中旬をめどに調整の上決定する。</p>
------	---